

# 2023 年度（令和 5 年度）第 1 回病院・薬局関東地区調整機構委員会（総会）議事録

日時：2023 年（令和 5 年）4 月 28 日（金）14:00～16:00

場所：長井記念ホール（Zoom 併用）

出席者：関東甲信越 1 都 9 県薬剤師会および病院薬剤師会委員、日本保険薬局協会委員、日本チェーンドラッグストア協会委員、日本病院薬剤師会、東京都薬剤師会、薬学教育協議会、関東地区調整機構、24 大学委員

三原潔副委員長より出席人数の確認が行われ、議決権を有する委員の過半数の出席が確認され、総会開催の規定を満たしていることが確認された。

## 1. 報告事項

### 1. 薬学教育協議会報告

本間浩代表理事より、2023 年 1 月 24 日（火）に開催された第 46 回病院・薬局実務実習中央調整機構委員会の議事録の重要事項として、①2022 年度第 III 期実務実習中に、学生が指導薬剤師より LINE 交換を求められる事例があり、LINE の使用に関する情報交換とルール作りが議論され、本件は当協議会が一旦預かることになったこと、②令和 5 年度実務実習広報用ポスターが日本病院薬剤師会の協力で撮影され、本ポスターは文部科学省、厚生労働省を含む 8 団体より後援と名義使用が承諾されたこと、③講習会ビデオの e-ラーニング配信が 2023 年 3 月 31 日で終了されることに伴い、今後は地区調整機構や当協議会で更新講習会を開催すること、現在の講習会内容の再編成が検討されていることが報告された（資料 1-1-1）。

### 2. 2022 年度（令和 4 年度）第 III 期および第 IV 期実務実習実施状況

中村智徳委員長より、中央調整機構委員会へ示した 2022 年度第 III 期および第 IV 期の実務実習実施状況が紹介され、感染事例もあることから引き続き感染対策に留意して実習を継続して頂きたいことが報告された（資料 1-1-2）。

### 3. 2023 年度（令和 5 年度）ふるさと実習割振り結果

中村智徳委員長より、2023 年度（令和 5 年度）ふるさと実習割振り結果が紹介され、関東地区外への申し込みおよび関東地区外からの申し込み共に、希望したエントリーに対して割振りが概ね決定したことが報告された（資料 1-1-3）。また伊東明彦事務局長より、病院と薬局はセットでエントリーするのが理想であるが、現実には必ずしもそうならないことの補足説明がなされた。

## 4. 小委員会報告

### 1) 大学小委員会報告

嶋田修治委員長より、新型コロナウイルス感染症が 5 月 8 日に 5 類へ変更されることから、世間では規制緩和の方向に舵が切られるが、医療現場で実習を行う実務実習生は相応の感染症対策がまだ必要との判断で、「引き続き実務実習生に対しては実習開始前から実習期間中は手指消毒、マスク着用および体調管理などを徹底するこれまでの方針を今しばらく継続することを基本」とし、感染対策の考え方が施設ごとに異なる状況を鑑み、「当該実務実習生の実習施設が定める新型コロナウイルス感染症への対応方針を逐次確認し遵守することも提唱」する感染対策の考え方を、大学小委員会から 3 月 13 日（月）に通知したことが報告された（資料なし）。また本日の総会前に大学小委員会を開催し、関東地区調整機構の次期委員長候補者を選出したことが報告

された。

## 2) 病院小委員会報告

渡邊真知子委員長より、特に報告すべき事項がないことが報告された（資料なし）。

## 3) 薬局小委員会報告

久保田充明委員長より、特に報告すべき事項がないことが報告されたが、本日の総会前に開催した薬局小委員会で、薬局実習中に発生した自己注射剤の使用済注射針回収に伴う針刺し事例が話題に挙がり、千葉県薬剤師会の杉山宏之委員より経緯説明が行われた。

## 4) 指導薬剤師養成小委員会報告

小佐野博史特別委員より、2023年度の関東地区における認定実務実習指導薬剤師ワークショップ（以下、WS）開催予定が報告され、令和5年度は令和4年度と同様のエントリー方法で実施すること、座学講習会は認定WS開催前の実施を原則とすること、大学参加者は大学へ希望調査を行うこと、認定WS資料の共通部分は調整機構で作成して開催事務局に送付することが報告された（資料1-4-4①）。また認定実務実習指導薬剤師養成講習会の開催一覧が報告された（資料1-4-4②）。さらに2023年度関東地区WSの大学受講者参加予定16名の割振りが報告された（資料1-4-4③）。

また関東地区調整機構WS開催経費について、参加費は一人当たり30,000円とし、関東地区調整機構からの補助金は参加者一人当たり15,000円を上限とすること、大学教員の参加者で交通費および宿泊費が必要な場合は関東地区調整機構の補助金申請の対象になることが報告された（資料1-4-4 補足1）。また伊東明彦事務局長より、WS補助金交付申請書（資料1-4-4 補足2）およびWS開催経費明細書（資料1-4-4 補足3）の補足説明が行われた。

## 5) 実務実習向上小委員会

岸川幸生委員長より、都県薬剤師会、都県病院薬剤師会および大学から情報収集した質の高い実務実習事例は、第I期11例、第II期33例、第III期28例、第IV期2例あったことが報告された（資料1-4-5①）。

## 5. その他

総会参加者からの質問は特になかった。

## 2. 協議事項

### 1. 2022年度（令和4年度）第2回病院・薬局実務実習関東地区調整機構委員会（総会）議事録（案）

中村智徳委員長より、2022年度（令和4年度）第2回病院・薬局実務実習関東地区調整機構委員会（総会）議事録（案）が示された（資料2-1）。本議事録（案）は委員より承認された。

### 2. 2022年度（令和4年度）事業報告（案）

中村智徳委員長より、2022年度（令和4年度）事業報告（案）が示された（資料2-2）。令和4年度関東地区実務実習状況と今後の方針、総会・委員会の開催状況、実務実習施設の割り振り調整作業、実務実習の円滑な実施に向けた事業等（トラブル、データベース、ふるさと等）、認定実務実習指導薬剤師の養成・認定実務実習指導薬剤師の資質向上についての実施状況について説明が行われた。本事業報告（案）

は委員より承認された。

### 3. 2022年度（令和4年度）決算報告（案）

山田純一運営委員より、関東地区調整機構2022年度（令和4年度）決算報告（案）が示された（資料2-3）。収入は基本会費、大学規模会費、薬学教育協議会からの補助金、預り金、受取利息および前期繰越金を含めて54,515,971円であったこと、支出は管理費が概ね予算どおりの執行状況であったが、事業費はコロナ禍の影響で会議、WSおよび講習会の開催が少なく支出合計が20,413,838円および次期繰越金が34,102,133円となったことが報告された。しかし今後はWSおよび講習会などの開催が増えることから、調整機構の業務を適正に運営するためには相応の繰越金が必要であるとの説明がなされた。委員より資料に誤植があると指摘があり、三原潔副委員長より資料訂正の説明がなされた。最終的に本決算報告（案）は委員より承認された。

### 4. 2022年度（令和4年度）監査報告

監事の永田泰造運営委員より、2022年4月1日から2023年3月31日までの会計および業務の監査を行った結果、会計帳簿記載金額と証拠書類が一致し、収支状況を正しく示し不正行為がないことを認めたことが報告された。また繰越金が多いことについては、今後はWSおよび各種講習会などの開催の増加、認定実務実習指導薬剤師の新旧交代、さらにコアカリ改訂に伴う実務実習ガイドラインの見直しなどもあることから、この繰越金は調整機構が実務実習の質の向上に寄与するための予算と捉え、4年さらに5年をかけて効果的に効率良く使用する必要があることも報告された（資料2-4）。

### 5. 委員長・副委員長などの選出

#### 1) 関東地区調整機構委員長の選出

三原潔（現）副委員長より、先ほど大学小委員会を開催し、立候補のあった中村智徳（現）委員長（慶應義塾大学）を次期関東地区調整機構委員長の候補者に選出したことが提案され、本総会により留任が承認された。就任にあたって中村智徳（新）委員長から、コロナ禍の状況下で関係者のご協力により実務実習が継続できた経験を踏まえて、薬局・病院・大学間の「三薬連携」の強化を継続したいとの挨拶が行われた。

#### 2) 関東地区調整機構副委員長の指名（新委員長）

中村智徳（新）委員長より、三原潔（現）副委員長（武蔵野大学）が指名され留任となった。

#### 3) 常置委員会委員長、副委員長の報告

##### ①大学小委員会

中村智徳（新）委員長より、大学小委員会委員長は嶋田修治（現）委員長（東京理科大学）の留任が報告された。その後、嶋田修治（新）委員長より、大嶋繁（現）副委員長（城西大学）の副委員長留任が報告された。

##### ②病院小委員会

中村智徳（新）委員長より、病院小委員会委員長は渡邊真知子（現）委員長（東京都病院薬剤師会）の留任が報告された。その後、渡邊真知子（新）委員長より、白井裕二委員（神奈川県病院薬剤師会）を副委員長とすることが報告された。

##### ③薬局小委員会

中村智徳（新）委員長より、薬局小委員会委員長は久保田充明（現）委員長（神奈川県薬剤師会）の

留任が報告された。その後、久保田充明（新）委員長より、田中友和（現）副委員長（栃木県薬剤師会）の副委員長留任が報告された。

#### 4) 特別委員会委員の報告および委員長、副委員長の選出

##### ①指導薬剤師養成小委員会委員長、副委員長の選出

中村智徳（新）委員長より、廣原正宣委員（昭和薬科大学）を委員長とすることが報告された。その後、廣原正宣（新）委員長より副委員長は後ほど選出することが報告された。

##### ②実務実習向上小委員会委員長、副委員長の選出

中村智徳（新）委員長より、向後麻里委員（昭和大学）を委員長とすることが報告された。その後、向後麻里（新）委員長より副委員長は後ほど選出することが報告された。

#### 5) 委員長指名の運営委員の承認

##### ①薬局関係（東京都薬剤師会）

中村智徳（新）委員長より、山田純一（現）運営委員が指名され、本総会により留任が承認された。

##### ②病院関係（日本病院薬剤師会）

中村智徳（新）委員長より、和泉啓司郎（現）運営委員が指名され、本総会により留任が承認された。

##### ③監事

中村智徳（新）委員長より、永田泰造（現）運営委員が指名され、本総会により留任が承認された。

##### ④薬学教育協議会

中村智徳（新）委員長より、本間浩（現）運営委員が指名され、本総会により留任が承認された。

##### ⑤その他

中村智徳（新）委員長より、指導薬剤師養成小委員会の特別委員として、小佐野博史（現）特別委員（関東地区調整機構）、日高慎二（現）特別委員（日本大学）および浅井和範（現）特別委員（星薬科大学）が指名され、本総会により留任が承認された。

#### 6. その他

中村智徳（新）委員長より議事録作成人として嶋田修治委員（東京理科大学）、議事録署名人として根岸健一委員（北里大学）および草野朋子委員（茨城県薬剤師会）が提案され、各委員から了承が得られた。

文部科学省の大久保正人氏（高等教育局医学教育課）より、薬学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂が終了し、今後は新モデル・コア・カリキュラムによる実務実習ガイドラインの作成が開始されるが、これらの改訂および作成の場において薬剤師に対する期待があることを留意いただき、実務実習の内容および質の向上に引き続き取り組んで欲しいとのコメントがあった。

厚生労働省の長谷川浩一氏（医薬・生活衛生局総務課）より、薬剤師の地域偏在、卒後教育、病院薬剤師の確保など薬剤師を取り巻く環境が大きく変化しており、今後とも皆様に協力を頂きたいとのコメントがあった。

（文責 嶋田 修治）